

上映企画

日本の女性映画人(1)——無声映画期から1960年代まで

Women Who Made Japanese Cinema [Part 1]: From the Silent Era to the 1960s

2023年2月7日(火) - 3月26日(日) 国立映画アーカイブ 小ホール

上映企画「日本の女性映画人」では、日本における女性映画人の歩みを歴史的に振り返り、監督・製作・脚本・美術・衣裳デザイン・編集・結髪・スクリプターなど様々な分野で女性が活躍した作品を取り上げます。

従来の日本の製作現場では男性が圧倒的多数を占めており、スタッフとして貢献した女性たちの存在の多くはこれまで見過ごされてきました。近年再評価が進んでいる、女性監督第1号の坂根田鶴子、女優から監督に進んだ田中絹代や望月優子、脚本の水木洋子や田中澄江、編集の杉原よ志、衣裳デザインの森英恵のみならず、多様な領域で手腕を発揮した女性映画人たちにスポットライトを当てます。

また、戦前の日本映画の黄金期に大手映画会社で健筆をふるった鈴木紀子(1909-1985)を中心として、戦前の女性脚本家の小特集も行います。

本企画は、Part 1として、無声映画期から1960年代以前にキャリアを開始した女性映画人80名以上が参加した作品を対象に、劇映画からドキュメンタリーまで、計81作品(44プログラム)を上映する大規模な特集上映となります。

脈々と築きあげられてきた女性映画人たちの歴史を掘り起こし、その仕事を見直すことによって日本映画への新たな視座が切り拓かれることを願っております。

見どころ

▼無声映画期から戦後にかけての女性脚本家たちの活躍

戦後には文芸映画を中心に女性脚本家の活躍が目立ちましたが、無声映画期には幅広いジャンルで女性たちが執筆しており、剣戟時代劇を多作した林義子や社喜久江、松竹蒲田で母ものや少女ものに携わった水島あやめを取り上げます。また、無声映画期から戦中にかけて活躍した鈴木紀子は、『チョコレートと兵隊』(1938、佐藤武)や『花つみ日記』(1939、石田民三)などの秀作を手がけました。そして、戦後にデビューした水木洋子、田中澄江、橋田壽賀子、楠田芳子、和田夏十らが個性豊かな作品群を送り出しました。

▼戦前から専門職として確立されていた結髪やスクリプターに注目

無声映画期には、撮影所に女優が誕生するよりも先に結髪部の女性スタッフが定着していました。増淵いよの伊奈もとは、1917年から日活向島で女形の結髪を手がけて以来、戦後にかけて活躍しました。また、製作現場での記録を担当するスクリプターは女性採用がある限られた職種でしたが、戦前から女性が主力の専門職として確立され、40年以上の長いキャリアを歩んだケースや、スクリプターを出発点に監督やプロデューサーなどへ進んだケースもありました。日本の女性スクリプター第1号と推定される坂井羊子をはじめ、戦前からの草分けである三森逸子、鈴木伸、藤本文枝、城田孝子から、戦後にデビューした中尾壽美子、秋山みよ、宮本衣子、野上照代、白鳥あかね、梶山弘子、高岩禮子まで、日本映画黄金期の多大な貢献に光を当てます。

▼文化・記録・教育映画で手腕を発揮した女性監督たち

戦前より先駆的活動をした脚本家の厚木たか以降、文化・記録・教育映画の発展を背景として1950年代から女性監督たちが実績を上げていました。科学映画で定評のあった中村麟子、岩波映画でデビューして活躍した時枝俊江と羽田澄子、教育映画の西本祥子、PR映画なども含め幅広く手がけたかんけまり、人形アニメーションの神保まつえ、さらに1960年代に監督デビューした藤原智子と渋谷昶子を取り上げます。



(左から)『チョコレートと兵隊』(鈴木紀子/脚本)、『キクとイサム』(水木洋子/脚本)、『姉妹』(橋田壽賀子/脚本)

上映作品 (81 作品、44 プログラム)

	対象者	上映作品	年	監督名
先駆的な歩み				
1	坂井羊子/記録、菊地いよの/結髪	婦系図	1934	野村芳亭
2	岡田嘉子/自社プロダクション・主演	江戸子守唄	1930	—
	入江たか子/自社プロダクション・主演、小野寺すま子/結髪、市原直子/記録	かりそめのくちべに 雁 来 紅	1934	鈴木重吉
3	坂根田鶴子/編集、岸富美子/編集助手	浪華悲歌	1936	溝口健二
	坂根田鶴子/監督・脚本	開拓の花嫁	1943	坂根田鶴子
4	井出玉江/編集	美はしき出發	1939	山本薩夫
	井出玉江/監督・脚本	第十回 芸術祭	1955	井出玉江
	井出玉江/監督	岩尾内ダム その建設の記録 —第二部建設篇—	1969	井出玉江
《小特集》 鈴木紀子と戦前の女性脚本家たち				
5	林義子/原作・脚本	宮本武蔵[部分]	1929	井上金太郎
	水島あやめ/脚本	親	1929	大久保忠素、清水宏
	社喜久江/原作・脚本	辻占賣の少女	1933	鈴木日出男
	鈴木紀子/脚本	母の微笑[部分]	1934	渡邊邦男
	鈴木紀子/原作・脚本	お父さんの歌時計 [無声短縮版]	1937	吉村廉
6	鈴木紀子/脚本	軍國スケッチ 銃後	1938	山本弘之
	鈴木紀子/脚本 (石川秋子名義)	チョコレートと兵隊	1938	佐藤武
7	鈴木紀子/脚本	花つみ日記	1939	石田民三
8	鈴木紀子/脚本	幼き者の旗	1939	佐藤武
	森山季子/脚本	母を讀へる歌	1939	原研吉
9	鈴木紀子/脚本	女學生記	1941	村田武雄
	厚木たか/脚本	わたし達はこんなに働いてゐる	1945	水木荘也
脚本家				
10	水木洋子/脚本	キクとイサム	1959	今井正
11	田中絹代/監督、田中澄江/脚本、飯村知子/記録	乳房よ永遠なれ	1955	田中絹代
12	橋田壽賀子/脚本、五島サエ子/衣裳	きょうだい 姉 妹	1953	岩間鶴夫
13	楠田芳子/脚本、杉原よ志/編集	夕やけ雲	1956	木下恵介
	楠田芳子/脚本	木内克とその作品	1972	楠田浩之
14	和田夏十/脚本	黒い十人の女	1961	市川崑
15	鷹沢和善/脚本、田中美佐江/記録、妹尾茂子/結髪	お染久松 そよ風日傘	1959	沢島忠
製作者				
16	水の江瀧子/製作、森英恵/衣裳デザイン、君塚みね子/記録	狂った果実	1956	中平康
17	宮古とく子/製作、武田静子/美粧	人間の壁	1959	山本薩夫

美術監督				
18	村木忍/美術	愛情の都	1958	杉江敏男
編集者				
19	杉原芳子(よ志)/編集、増淵いよの/美粧	女性の勝利	1946	溝口健二
20	沼崎梅子/編集	胸より胸に	1955	家城巳代治
21	神島歸美/編集	女の防波堤	1958	小森白
22	大沢しづ/編集	のれんと花嫁	1961	番匠義彰
23	武田うめ/編集、伊奈圭子/結髪、森淑子/記録、浅木節子/衣裳	女探偵物語 女性SOS	1958	丸林久信
	兼子玲子/編集、石井清子/特技編集、久松桂子/特技記録、柳生悦子・浅木節子/衣裳デザイン	妖星ゴラス	1962	本多猪四郎
スクリーンライター				
24	※参考上映	明日を創る人々	1946	山本嘉次郎、黒澤明、関川秀雄
25	三森(牧田)逸子/記録	真人間	1940	伊奈精一
	牧田逸子/記録、土屋すて/結髪	野口英世の少年時代	1956	関川秀雄
26	鈴木伸 ^{ゾウ} /記録	宗方姉妹	1950	小津安二郎
27	藤本文枝/助監督、左羽玉子/記録	忘れられた子等	1949	稲垣浩
28	望月優子/監督・脚本、城田孝子/記録	おなじ太陽の下で	1962	望月優子
	城田孝子/監督、新沼恵子/記録、丹治光代/編集	結婚する娘へー父の愛	1971	城田孝子
29	中尾壽美子/記録、伊奈モト/結髪、荒田ヨリエ/衣裳	母なれば女なれば	1952	亀井文夫
30	秋山みよ/記録、花井りつ/結髪、吉実シマ/衣裳	地獄門 [デジタル復元版]	1953	衣笠貞之助
31	宮本衣子/記録、伊奈モト/メーキャップ	夕日と拳銃	1956	佐伯清
32	堀北昌子/記録	才女気質	1959	中平康
33	野上照代/記録、松本好子/結髪	蜘蛛巣城	1957	黒澤明
34	白鳥あかね/記録	ギターを持った渡り鳥	1959	斎藤武市
35	梶山弘子/記録、斉藤はな・北沢政子/衣裳	独立機関銃隊未だ射撃中	1963	谷口千吉
36	高岩(佐々木)禮子/記録、伊奈もと/結髪、朝倉摂/題字	五番町夕霧楼	1963	田坂具隆
文化・記録・教育映画				
37	厚木たか/脚本	或る保姆の記録	1942	水木荘也
	厚木たか/脚本	少女たちの発言	1948	京極高英
	石山一枝/脚本	新しい歌声	1950	丸山誠治
	石山一枝/監督	産業科学映画大系 化学せんい	1951	石山一枝
38	中村麟子/監督・脚本	小さな芽ばえ	1958	中村麟子
	中村麟子/監督、藤原智子/脚本	明治の絵画	1968	中村麟子
	中村麟子/監督	五島列島の若者組	1986	中村麟子

39	西本祥子/監督・脚本	理科映画大系 ころと車	1956	西本祥子
	西本祥子/監督	理科映画大系 雨水のゆくえ	1959	西本祥子
	時枝俊江/監督・脚本	町の政治 べんきょうするお母さん	1957	時枝俊江
	時枝俊江/監督・脚本	絵図に惚ぶ江戸のくらし 一吉左衛門さんと町の人々	1977	時枝俊江
	時枝俊江/監督	光った水とろうよ 一幼児の知的好奇心をさぐる	1979	時枝俊江
40	羽田澄子/監督・脚本	村の婦人学級	1957	羽田澄子
	羽田澄子/監督、加納宗子/編集、小高美奈・堀山博子/演出助手	女たちの証言 —「労働運動のなかの先駆的女性たち」—	1996	羽田澄子
41	かんけまり/監督・脚本	友だちのできない子	1957	かんけまり
	かんけまり/監督・脚本	8ミリと教室	1958	かんけまり
	かんけまり/監督	ガジュマルは生きている—沖縄小笠原の返還をめざして—	1965	かんけまり
	かんけまり/監督	鳴らせ自由の号笛 一人権と民主主義を守るたたい	1975	かんけまり
42	岡野薫子/脚本	花と昆虫	1956	奥山大六郎、飯田勢一郎
	岡野薫子/脚本	受胎の神秘	1958	奥山大六郎、坂谷英男
	岡野薫子/脚本、沼崎梅子/編集	猫の散歩	1962	大橋秀夫
	杉原せつ/監督・脚本	冬の日 ごごのこと	1964	杉原せつ
43	藤原智子・山口淳子/監督	オランウータンの知恵	1960	藤原智子、山口淳子
	渋谷昶子/監督・脚本	挑戦	1963	渋谷昶子
	藤原智子、渋谷昶子/出演	わが映画人生 藤原智子監督	2007	—
44	神保まつえ/監督・脚本、有馬征子・中村協子/アニメーション	グリム童話より くつやとこびと	1960	神保まつえ
	神保まつえ/監督、有馬征子・飯田純子/アニメーション	もりのおんがくたい グリム童話より	1960	神保まつえ
	神保まつえ/監督・脚本、有馬征子・飯田純子/アニメーション	ジャータカものがたり しろいぞう	1962	神保まつえ
	神保まつえ/監督・脚本、飯田純子・和田京子/アニメーション	セロひきのゴーシュ	1963	神保まつえ
	神保まつえ/監督・脚本、和田京子・飯田純子/アニメーション	泣いた赤おに	1964	神保まつえ

開催概要

企画名：日本の女性映画人（1）——無声映画期から1960年代まで

（英題：Women Who Made Japanese Cinema [Part 1]: From the Silent Era to the 1960s）

会期：2023年2月7日（火）～3月26日（日）（休映日：月曜日および3月18日（土））

会場：国立映画アーカイブ 小ホール [地下1階]

主催：国立映画アーカイブ

協力：協同組合 日本映画・テレビスクリプター協会

HP：https://www.nfaj.go.jp/

（※作品情報やスケジュールなどの詳細は、【12月20日16時公開予定】の企画ページで発表します。）

問合せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

チケット：1月31日（火）以降、毎週火曜日10:00amより、翌週（火～日）上映回の電子チケットを当館HPより公式チケットサイトにて各回の開映15分前までオンライン販売します。チケットの窓口販売など購入方法の詳細はHPをご確認ください。〈料金〉一般：520円／高校・大学生・65歳以上：310円／小・中学生：100円／障害者（付添者は原則1名まで）・キャンパスメンバーズ・未就学児・優待：無料

〈本特集に関するお問い合わせ〉※一部の作品のステル写真を広報用に貸出します。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

国立映画アーカイブ（上映室：横田・森宗） MAIL：pr@nfaj.go.jp TEL：03-3561-0823 FAX：03-3561-0830